

1. 阿賀野市の概要と沿革

阿賀野市は、県都新潟市の南東に位置し、地勢こうぼうは東に五頭山脈の稜線をもって阿賀町と接し、南及び西に阿賀の清流をめぐらして五泉市及び新潟市に面し、北に福島潟の一角を擁して新潟市及び新発田市と接し、東西19.1km、南北16.8km、面積192.72km²、うち東半分は山地、西半分は平野部となっている。

自然山水はすべて五頭山脈に源流を發し、東から西又は北西に向かって流れている。その主なるものは、北から折居川、大荒川、安野川、ツベタ川がある。ほかに人工用水路として、小松地先阿賀野川から取水し山裾を北上して新潟東工業港へと延びる阿賀右岸大規模用水の幹線及び支線、水路が管内殆どの農地を潤すとともに、農閑期でも大切な消防水利となっている。

道路網は、磐越自動車道が、市の南部を横断し、国道49号が中心部を貫いて、新発田・新潟を結ぶ国道460号と交差しており、更に国道290号が山沿いを走り五泉市へと延びている。

県道は、市街地から放射線状に、水原・出湯線、大室・水原線、新関・水原停車場線、新潟・長浦線等がある。

平成6年7月28日、磐越自動車道、安田インター・新潟中央インター間が、平成8年11月14日安田インター・津川インター間の供用開始、平成9年10月1日全線開通により新潟市はじめ県内外からの交通アクセスがより良くなった。なお、今はローカル化したJR羽越線新津・新発田間が平野部を南西から北東に走り、きょうがせ、すいばら、かみやまの3駅がある。

阿賀野市は、有史以来交通、経済、文化、軍事の要衝となり、徳川時代には幕府直轄の奉行所、代官所が置かれ、廃藩置県前後の明治2年に越後府が置かれ、水原県となりやがて新潟県と変遷したことから、新潟県政発祥の地であるという自負もあり、平成7年8月には水原代官所が復元された。

市内の安田地区、笹神地区、京ヶ瀬地区は支配系統の異なる新発田領であったが、日常生活、経済活動に最も密接な水原地区の市場を中心に共同生活圏が生成され一体感が培われ今日に至っている。

これらを背景として昭和41年4月旧町村及び消防機関の協議会の総会において広域消防早期実現の決議がなされ、この方針に則り、県の助言指導を受けながら事務担当者から消防機関、町村執行部、議会へと段階的に広く研究協議を重ね、紆余曲折の末、昭和45年10月1日から救急業務を旧水原町に委託する方法により開始し、昭和48年4月1日一部事務組合が発足し、常備消防だけではあるが一体化が実現した。その後昭和54年4月1日、阿賀北広域組合水原郷消防本部が発足する。

平成16年4月1日、水原町・安田町・笹神村・京ヶ瀬村が町村合併し、阿賀野市が誕生したことにより阿賀野市消防本部となり現在に至る。

2. 阿賀野市消防本部のあゆみ

昭和48. 4. 1 水原郷消防組合発足、構成町村 水原町、安田町、笹神村、京ヶ瀬村、組合管理者に水原町長佐藤貞太郎就任（消防長事務取扱）水原郷消防職員として水原町退職者23名就職、安田町退職者6名就職、笹神村退職者3名就職、新採用20名就職、常勤職員総員52名となる。

旧水原町消防庁舎を利用し消防本部・署を設置、消防自動車2台、救急車1台、指令車1台、署員33名、旧安田町消防本部を利用し安田分遣所を設置、消防車1台・救急車1台署員7名、旧笹神村消防団本部を利用し笹神分遣所を設置、消防車1台、署員6名、旧京ヶ瀬村農業共済組合事務所を利用し京ヶ瀬分遣所を設置、消防車1台、署員6名。以上の体制で発足した。

昭和48. 4. 1 阿賀野川総合運動場を阿賀野川総合運動場協議会から当消防組合が引き継ぐ。

昭和48. 7. 1 本署27名、安田分遣所9名、笹神分遣所8名、京ヶ瀬分遣所8名の体制となる。

昭和48. 9. 軽連絡車1台購入本署に配置。

昭和48. 11. 2,000リットル入りタンク車1台購入、本署に配置。

昭和48. 12. 20 管理者水原町長佐藤貞太郎退職。

昭和49. 2. 7 笹神村長折笠信雄管理者（消防長事務取扱）に就任。

昭和49. 3. 指令車更新本署に配置。

昭和49. 3. 31 職員1名退職、実員51名となる。

昭和49. 4. 1 職員新採用8名、実員59名となる。

昭和49. 4. 笹神分遣所新庁舎鉄筋コンクリート造が落成し移転。

昭和49. 6. 軽連絡車1台購入安田分遣所に配置。

昭和49. 7. 1 本署31名、安田分遣所10名、笹神分遣所9名、京ヶ瀬

分遣所 9 名の体制となる。

- 昭和49. 9. 8 第 2 5 回県消防大会ポンプ操法競技大会ポンプ車の部で、
第 3 位入賞。（会場佐渡小木町）
- 昭和49. 10. 笹神分遣所消防車更新。
- 昭和49. 11. 21 本署消防車 1 台水原町消防団に返納。
- 昭和50. 4. 1 職員新採用 1 名、実員 6 0 名となる。
- 昭和50. 4. 阿賀野川総合運動場連絡車 1 台購入本署に配置。
- 昭和50. 4. 軽連絡車 1 台購入笹神分遣所に配置。
- 昭和51. 4. 軽連絡車 1 台購入京ヶ瀬分遣所に配置。
- 昭和51. 7. 機材積載車 1 台購入本署に配置。
- 昭和51. 10. 8 日本損害保険協会から消防車（B D - I 型） 1 台寄贈を受
け本署に配置。
- 昭和52. 3. 31 職員 1 名退職、実員 5 9 名となる。
- 昭和52. 4. 1 職員新採用 1 名、実員 6 0 名となる。
- 昭和53. 3. 31 職員 1 名退職により本署 2 9 名、安田分遣所 1 0 名、笹神
分遣所 1 0 名、京ヶ瀬分遣所 1 0 名体制の実員 5 9 名となる。
- 昭和53. 4. 1 新発田広域消防と消防相互応援協定締結。
- 昭和53. 5. 12 安田局119番を本部へ移転。指令卓への組込は、6月5日。
- 昭和53. 7. 23 二市北蒲原地区支会ポンプ操法競技会、署ポンプ自動車の
部で優勝。（会場 豊栄市）
- 昭和53. 8. 20 第 2 9 回県消防大会操法競技大会署ポンプ自動車の部で優
勝（会場 六日町）
- 昭和54. 3. 31 水原郷消防組合解散。
- 昭和54. 4. 1 阿賀北広域組合発足。
組合構成団体に豊栄市も含まれることとなったが、消防に
関しては従来通り。
組合管理者に水原町長吉川正夫就任、消防長に小林正巳が
就任した。

消防施設、消防態勢は旧水原郷消防組合より継承。

昭和54. 11. 13 村松瓦斯水道株式会社から広報車 1 台の寄贈を受け本署に配置。

昭和55. 2. 5 日本自動車工業会から救急車（2 B型） 1 台の寄贈を受け本署に配置。

旧救急車（A級）は予備車として運用。

昭和55. 4. 1 職員新採用 2 名、本署 3 1 名、安田分遣所 1 0 名、笹神分遣所 1 0 名、京ヶ瀬分遣所 1 0 名、実員 6 1 名となる。

昭和55. 4. 1 水原郷消防署救助隊発足。

昭和55. 7. 20 二市北蒲原地区支会ポンプ操法競技大会署ポンプ自動車の部で優勝。（会場 水原町）

昭和55. 10. 24 副管理者笹神村長折笠信雄任期満了退任。

昭和55. 10. 25 笹神村長五十嵐利彦副管理者に就任。

昭和56. 1. 1 職員 1 名死亡退職、実員 6 0 名となる

昭和56. 3. 1 救急医療情報システム端末機設置により運用開始（県委託）

昭和56. 3. 31 職員 1 名退職、実員 5 9 名となる。

昭和56. 4. 1 職員新採用 2 名、実員 6 1 名となる。

昭和56. 7. 24 第 1 0 回消防救助技術東北指導会初出場。（会場 仙台市）

昭和56. 11. 30 防衛施設庁補助事業により消防ポンプ自動車（B D - I 型） 1 台購入本署に配置。

昭和57. 3. 31 消防庁舎建設用地取得、造成工事完了（6, 0 4 9 m²）。

昭和57. 6. 9 副管理者京ヶ瀬村長小林健司任期満了退任。

昭和57. 6. 10 京ヶ瀬村長米山俊彦副管理者に就任。

昭和57. 11. 22 消防庁、消防施設補助事業により消防ポンプ自動車（B D - II 型） 1 台購入安田分遣所に配置。

昭和58. 3 新消防庁舎竣工。

昭和58. 4. 15 新庁舎に移転、業務開始。

昭和58. 7. 12 新消防庁舎竣工式。

- 昭和58. 8. 消防庁舎舗装工事竣工。
- 昭和58. 9. 1 豊栄市と消防相互応援協定締結。
- 昭和58.12. 消防庁舎消雪パイプ施設工事竣工。
- 昭和59. 7. 5 屋外訓練場張芝工事竣工。
- 昭和60. 5. 幼年消防クラブ、15クラブ発足。
- 昭和60. 8.28 職員1名退職、実員60名となる。
- 昭和60.10.30 消防庁消防施設補助事業により消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入、京ヶ瀬分遣所に配置。
- 昭和61. 4. 1 職員新採用1名、実員61名となる。
- 昭和61. 5. 幼年消防クラブ、7クラブ結成し22クラブとなる。
- 昭和61. 8.25 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（BD-I型）1台寄贈を受け本署に配置。
- 昭和62. 3.31 職員1名退職、実員60名となる。
- 昭和62. 4. 1 職員新採用1名、実員61名となる。
- 昭和62. 5. 幼年消防クラブ、1クラブ結成し23クラブとなり、管内の結成率100%となる。
- 昭和62. 8.25 NTT衛星通信119番設置。
- 昭和63. 6.30 職員1名退職、実員60名となる。
- 昭和63. 8. 日本消防協会から救急車（2B型）1台寄贈を受け本署に配置。旧救急車は予備車として運用。
- 平成元. 3.31 職員2名退職、実員58名となる。
- 平成元. 4. 1 職員新採用4名、実員62名となる。
- 平成元. 5. 1 職員新採用1名、実員63名となる。
- 平成2. 1. 1 水原郷幼少年婦人防火委員会結成。
- 平成2. 2.23 防衛施設庁補助事業により水槽付消防ポンプ自動車（水-II型）1台購入本署に配置。
- 平成2. 3.31 職員2名退職、実員61名となる。
- 平成2. 4. 1 職員新採用2名、転出1名、実員62名となる。

- 平成 2 . 7 . 1 安田分遣所配置の日本赤十字社救急車（2 B 型）更新。
- 平成 2 . 8 . 1 指令車更新。
- 平成 2 . 9 . 1 新潟県・水原郷総合防災訓練を当管内において実施。
- 平成 3 . 3 . 31 職員 1 名退職、実員 6 1 名となる。
- 平成 3 . 4 . 1 職員新採用 4 名、実員 6 5 名となる。
- 平成 4 . 3 . 31 職員 1 名退職、実員 6 4 名となる。
- 平成 4 . 4 . 1 定員 7 2 名、職員新採用 4 名、実員 6 8 名となる。
- 平成 5 . 4 . 1 定員 7 8 名、職員新採用 5 名、実員 7 3 名となる。
- 平成 5 . 12 . 16 消防庁消防施設補助事業により救助工作車 1 台購入、本署に配置。
- 平成 5 . 12 . 20 管理者水原町長吉川正夫任期満了退任。
- 平成 5 . 12 . 21 水原町長五十嵐雄介管理者に就任。
- 平成 6 . 3 . 31 職員 2 名退職、実員 7 1 名となる。
- 平成 6 . 4 . 1 定員 7 8 名、職員新採用 6 名、実員 7 7 名となる。
安田分遣所 1 9 名体制となる。
- 平成 6 . 7 . 1 磐越自動車道供用開始に伴い、安田分遣所に高速救急隊発足。
- 平成 6 . 7 . 19 磐越自動車道消防相互応援協定、締結。
- 平成 6 . 12 . 13 高速救急隊用救急車（2 B 型）1 台更新、安田分遣所に配置。
- 平成 7 . 3 . 22 防衛施設庁補助事業により消防ポンプ自動車（C D - I 型）1 台購入、笹神分遣所に配置。
- 平成 7 . 3 . 31 副管理者笹神村長五十嵐利彦任期満了退任。
- 平成 7 . 3 . 31 職員 4 名退職、実員 7 3 名となる。
- 平成 7 . 4 . 1 定員 7 8 名、職員新採用 4 名、実員 7 7 名となる。
新潟県消防防災ヘリコプター応援協定、締結。
- 平成 7 . 4 . 24 笹神村長佐藤一宇副管理者に就任。
- 平成 8 . 2 . 消防庁消防施設補助事業により、消防緊急通信指令施設設

置。

- 平成 8 . 3. 消防庁及び県消防施設補助事業により高規格救急車（2 B 型）1 台購入、本署に配置。
- 平成 8 . 4. 連絡車 1 台更新、本部に配置
- 平成 8 . 11. 11 東蒲原広域消防組合との消防相互応援協定、締結。
- 平成 9 . 3. 消防ポンプ自動車（CD-I 型、900 L 水槽付）1 台更新、安田分遣所に配置。
- 平成 9 . 3. 31 職員 2 名退職、実員 75 名となる。
- 平成 9 . 4. 1 定員 78 名、職員新採用 3 名、実員 78 名となる。
- 平成 10 . 3. 20 職員 1 名死亡退職、実員 77 名となる。
- 平成 10 . 4. 1 定員 78 名、職員新採用 1 名、実員 78 名となる。
- 平成 10 . 8. 3 安田分遣所配置の日本赤十字社救急車（2 B 型）更新。
- 平成 10 . 9. 25 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（CD-I 型）1 台寄贈を受け本署に配置。
- 平成 12 . 3. 31 職員 1 名退職、実員 77 名となる。
- 平成 12 . 4. 1 定員 78 名、職員新採用 1 名、実員 78 名となる。
- 平成 12 . 5. 2 五泉市消防本部と「ホテルさきはな」における消防業務について覚書締結。
- 平成 13 . 3. 8 消防ポンプ自動車（CD-I 型）1 台更新、京ヶ瀬分遣所に配置。
- 平成 13 . 3. 31 職員 1 名退職。実員 77 名となる。
- 平成 13 . 4. 1 京ヶ瀬分遣所、新庁舎移転、業務開始。
- 平成 14 . 9. 28 新潟県消防長会主催、新潟県消防職員駅伝大会を当本部管内を会場に実施。優勝は、五泉市消防本部。
- 平成 15 . 8. 9 職員 1 名死亡退職、実員 76 名となる。
- 平成 16 . 3 防衛施設庁補助事業により水槽付消防ポンプ自動車（水-II 型）1 台更新、本署に配置。

- 平成16. 3 財団法人日本消防協会から指令車1台寄贈を受け本部に配置。
- 平成16. 3. 31 職員1名退職、実員75名となる。
- 平成16. 4. 1 阿賀野市消防本部となり、定員85名、消防職員75名・事務職員3名(消防団事務担当)、計78名体制となる。
- 平成16. 11. 30 職員1名退職、実員77名となる。
- 平成17. 3 24m級はしご車1台導入、本署に配置。
- 平成17. 3. 31 職員1名退職、実員76名となる。
- 平成17. 4. 1 定員85名、職員新採用4名、実員80名体制となる。
- 平成17. 8. 4 安田分遣所配置の日本赤十字社救急車(2B型)更新。
- 平成18. 3. 31 職員2名退職、実員78名となる。
- 平成18. 4. 1 定員85名、職員新採用2名、実員80名体制となる。
- 平成19. 3. 31 職員1名退職、実員79名となる。
- 平成19. 4. 1 定員85名、職員新採用2名、実員81名体制となる。
- 平成19. 9. 10 指令車(指令2号車)・広報車(指令3号車)老朽化のため廃車。
- 平成20. 4. 1 定員85名、職員新採用3名、実員84名体制となる。
- 平成20. 7. 29 職員1名退職、実員83名となる。
- 平成20. 10. 28 消防庁消防施設等整備費補助事業・緊急消防援助隊設備整備事業補助により高規格救急車更新・本署に配置。
前高規格救急車は、安田分遣所に配置。
- 平成21. 3. 10 高規格救急車更新により、旧2B型救急車を朱色全面塗装して広報車(指揮後方支援車)として運用開始。
- 平成21. 3. 31 職員1名退職、実員82名となる。
- 平成21. 4. 1 定員85名、職員新採用3名、実員85名体制となる。